

a 学校教育目標	夢に向かって とともに学び とともに伸びる子どもの育成 ～ かがやけ南 心はひとつ ～		b 経営理念 (ミッション・ビジョン)	【ミッション】(自校の使命) 夢をもち、未来を切り拓く子どもの育成 【ビジョン】(自校の将来像) みんなの笑顔があふれる、安心・安全な学校 自分や相手を受け入れ協力して活動、自己決定できる子ども 一人一人の子どもを大切にし切磋琢磨し挑戦する教職員			
-------------	--	--	------------------------	--	--	--	--

評価計画						自己評価						改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営 目標	d 短期経営 目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	8月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
	h達成 値	h達成 値				達成度	j 評価	イ	ロ			ハ				
確かな学力	主体的・対話的で深い学びを追求する	自ら考え学び合う児童	○算数科における改善の視点を明確にした、子ども起点の授業づくり ・深い授業研究に基づく「問いの探究と解決、振り返り(R80)」を視点にした授業改善を進める。 ・組織的・意図的・計画的に授業研究、理論研修を積み重ねる。 ・教師用デジタル教科書を毎時間活用する。 ○基礎学力の定着の取組の徹底と個別支援の充実 ・既習事項の学び直しと個別目標を設定した繰り返し学習を継続する。 ・放課後の学力補充とプリント等の直しをやりきる。	○単元末テスト(国・算)の学校平均点 8月…4月～7月分 2月…9月～2月分 ○児童アンケート調査 ・「自分の考えを図・式・ことばなどで友達に伝えることができた」と肯定的に回答する児童の割合 ○振り返り(R80)の実施 ・一単元当たりの振り返り(R80)実施率 ・振り返り(R80) 自校の評価基準C以上	① 単元末テスト80%以上 児童アンケート・項目 ② 30%以上 ④	8月国語87.4算数84.9	2月国語88算数83	国語110算数103.7	A	○学年別に見ると、6年生算数(75.3)が目標値に達していない。EXテスト(活用問題テスト)で点数が低い児童が多くいる。普段の授業の中で、既習事項を活用して児童自らが課題を解決していないことも課題として挙げられる。 ○表現力については、目標値を達成しているが、6学年中4学年が目標値を下回っている。言葉で説明することに困難さを感じている児童が多いのではないかと考える。 ○R80実施率は、目標値を達成している。毎時間R80を書き、本時の学びを振り返ることは習慣化しているが、書きぶりがパターン化した児童がいることや、児童に書かせたいR80が教職員の中で明確になっていない。	○引き続き、1年生の「くり上がり・くり下がりのある計算」2年生の「かけ算九九」の習熟を「きいてねタイム」で実施すると共に、担任以外の教職員もチャレンジタイムの際に学級に入り、基礎学力の定着に努める。普段の授業から既習事項と比較をして課題を設定したり、既習事項を活用して課題を解決したりできるように更なる授業改善が必要である。 ○説明の仕方を練習する時間をチャレン図タイムの時間に設定し、図を用いて説明する練習を取り入れる。 ○R80が書けるような授業展開にするために、児童に書いてほしいR80を想定して授業を組み立てる。教職員一人ひとりの指導力向上のため、R80を各学年ブロックで交流する時間を確保する。	○			・授業を参観したが、落ち着いて学習していることに加え、どの学年も意欲的に学習に臨んでいて感心した。これは先生方が児童個々の状況や発達段階に応じた指導法を工夫している成果だと思ふ。 ・振り返りを重視した学習や個別学習の積み重ねにより、児童に基礎学力が身につについている。先生方は児童の知的好奇心に働きかける授業を行っているのが印象的だった。九九など基礎学力を確実に定着させておくことは、社会に出た後も大切な力となる。今後丁寧な取組を継続してほしい。 ・読書活動を充実させ、活字を読む力を育成することも有効だと思う。ねらいに応じてICT教材と使い分けながら取り入れてほしい。	
						表現84.3	表現82	表現102.5	A							C以上73.5
豊かな心	自他を尊重する心情・態度を育てる	思いを受け止め認め合う児童	○安全・安心な風土の醸成 ・伸びやかな中にも規律ある集団を目指す、学習集団づくりの充実と学習規律の徹底を図る。 ・「南小スタンダード」(挨拶・廊下歩行・言葉遣い・時間を守る・話の聴き方)を徹底する。 ・学校のきまり、生徒指導規程の見直しと改定を行う。 ○学級・学年経営を基盤とした支持的風土の醸成 ・生徒指導の4つの視点を生かした児童支援を行う。 ・児童同士のかかわりをもたせ、自分や友達のよさに気づき、認めある場を意図的につくる。(児童会活動、学年交流、縦割り班活動等)	○Hyper-QUによる学級満足度全国平均値との比較 ○児童アンケート調査 「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」肯定的に回答する児童の割合	学級満足度 ⑤ 全国平均以上 児童アンケート80%以上 ⑥	QU13/16	QU15/16	QU93.7	B	○Hyper-QUの結果を受け、集団と個の状態を把握し、それぞれに手立てを講じたりつながりを大切にした取組を行っていくことで、集団の中で個を、個から集団を高めていく。各学級が作成したQUシートを支援に生かしていく。 ○学習集団づくり研修での学びを蓄積していく。教職員が互いに学び合い指導力を高める。 ○児童会が行った「ニコニコふわふわ言葉ビンゴ」の取組等、委員会等児童が主体となって考える取組を継続して行い、児童どうしのつながりを深め、相手を思いやる心や感謝する心を育む。 ○朝会や学級活動を使ったり、学年会を開いたりして、教職員の思いを児童に積極的に伝えていき、目標に向かって高まっていこうという意識を向上させ、次学年へつなげる。	○			・多様な家庭環境や特性をもつ児童を多く抱える中、個のよさを認めながら、自己肯定感を高める取組を組織的に行っているところが素晴らしい。地域の中でも、児童が落ち着いて過ごしている印象がある。 ・児童会を主体に進めるなど、児童の思いを大切にしている点が良い。 ・異学年の活動を仕組むことも児童の心身の健全な育成につながると思うので、効果的に取り入れてみてほしい。		
						有用77.7	有用80	有用100	A							
健やかな体	心身の強さと運動能力の向上を図る	切磋琢磨し高め合う児童	○楽しみながらできる体力づくりの推進 ・実技研修(年2回)を実施し、児童の運動量の確保に向けた体育科授業改善に取り組む。 ・単元に応じた基礎運動を取り入れる。 ○食育の推進 ・栄養士による食育指導を年間3回以上行う。 ・保健委員会による給食のもりもりキャンペーンの実施	○児童アンケート調査 ・「体を動かすことが楽しい」 ・「苦手なものを少しでも食べた」肯定的に回答する児童の割合 ○「給食もりもりキャンペーン」達成率 ○体力テスト全国平均以上の項目の割合	児童アンケート・キャンペーン達成率80%以上 ⑧ 体力テスト⑨60%以上	児童アンケート86.6%	児童アンケート87.2%	児童アンケート109%	A	○児童アンケートの結果から「体を動かすことが好き」と答えた児童の割合が目標値を上回ることができた。気温が低いため外遊びをする児童は減ったが、みなみんタイムでは、外遊びをする児童は多く見られる。しかし、体力テストの結果は全国平均かつ県平均を下回る項目が男子3つ、女子6つあり、基礎体力の向上が課題である。原因として、熱中症対策での長期間の外遊びの禁止が運動不足につながり基礎体力の低下につながっていると考えられる。また、運動経験の偏りや、外遊びをする児童の固定化も考えられる。 ○栄養士による食育指導や保健委員会によるキャンペーンを実施した。指導前、キャンペーン前と比べ、残菜量を減らすことができた。特に、栄養士による食育指導は児童にとって、理解しやすい内容であったため、残菜量の削減にとっても効果的だった。	○体を動かすことに肯定的な意見が多い反面、基礎体力に課題があることから、来年度は、年間を通して取り組める活動をするなどで、体力の向上につなげたい。また、基礎体力の向上を図るために、5分間走や縄跳びに取り組む。さらに、昨年度まで使用していたカードを改良し、児童が主体的に取り組めるようにしたい。 ○実技研修等で学んだことを職員向けに還元研修を行う。 ○食育については、今後も継続して委員会活動を中心としたキャンペーンの取組や、栄養士の食育指導を中心に、児童の食への関心を高め、残菜の削減に取り組む。	○			・骨折が多いと聞き、昔と比べて児童の体力低下を感じた。公園でもゲームをもって遊んでいる姿を多く見かけ、体を動かす楽しみなどを感じることができていないのと思う。児童会の「みなみんタイム」の取組などを継続していくとともに、PTAの講演会で体力育成について取り上げるなど、保護者啓発を試みることも効果的だと思う。 ・社会に出て必要な力は、体力とコミュニケーション力だと感じるので、PTAとしても体力の大切さなど啓発していきたい。来年度の活動に取り入れていく。	
						91.8%	92.7%	115.8%	A							
信頼される学校	保護者、地域の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する	「地域とともにある学校」に向けた基盤づくり	○コミュニティ・スクールの推進 ～みんなの力で なせばなる みなみの宝 育てよう～ ・方針、年間計画の決定 ・地域、保護者と連携し、開かれた学校づくりを推進する。	○児童アンケート 「自分たちの発表を地域の人に喜んでいただいていたよかった」肯定的に回答する児童の割合 ○計画に沿って進めるとともに、定期的に進捗状況を確認し改善点について協議する。	児童アンケート80%以上 ⑩ 年3回	99.4%	100%	125%	A	○児童アンケートの結果、「自分たちの発表を地域の人に喜んでいただいていたよかった」と、肯定的に答えた児童の割合は100%で目標を達成した。地域の人からの、さまざまな発表の場の提供や称賛の声が児童の肯定的評価につながっている。 ○学校運営協議会を4月と9月と2月の3回開催し、進捗状況を確認したり、改善点について協議したりしている。	○3月中に、次年度の発表の場の日程を確認し、計画的に準備を進めていく。 ○各学年がコミュニティ・スクールに関わるができるよう内容を考え、それに向けた計画案を検討していく。	○			・南小のコミュニティ・スクールの活動は、企業等が多い地域性をよく生かした取組がなされていると思う。児童と企業等の双方向の関わり合いを通して、互いの理解が深まり、学校運営に生かしていけると思うので、来年度も全面的に協力していく。 ・地域活動後の児童の肯定的評価が高いことが嬉しい。児童も地域と関わりをもつことで達成感を感じていると分かった。今後つながりづくりを意識して取り組んでほしい。	
						2回	3回	100%	A							
		健康でやりがいを持って勤務できる環境づくり	○支持的風土の醸成と自己研鑽による人間力の向上 ・チーム力を活かし、計画的・協働的に業務を推進する。 ・改善を主体的に進め、教職員のワークバランスとメンタルヘルスを大切にしたい働き方を追求する。	○教職員アンケート 「チームとして解決に取り組んでいる」肯定的に回答する教職員の割合 ○勤務時間外の在校時間が年間360時間未満の教職員の割合(目安) 前期…180時間以下 後期…360時間未満	教職員アンケート80%以上 ⑪ 教職員の割合80%以上	100%	100%	111.1%	A	○組織的な課題解決に係るアンケートによる全職員の3以上の肯定的評価平均は100%であり、目標を達成した。生徒指導事案への対応を、生徒指導主事を中心に組織的にかつ効率よく進めていることが成果につながっている。 ○定時退校や教職員自身の働き方の見つけ直しにより、目標退勤時刻が守れている教職員は87.5%で、昨年度比+15.6%と同時期の状況より改善が進んだ。	○学力向上や落ち着いた学校風土が醸成されつつあるので、今後も学力向上の結果につながる着実な取組を、改善を進めながら行う。また、生徒指導事案への対応を組織的に進めることで、早期解決を図り、保護者や地域との信頼関係をさらに深めていく。 ○働き方については、校内衛生委員会での熟議等を通して、目標の自己設定や意識化、運用の工夫を進めながら目標の達成を図る。	○			・学校運営の取組自体は適正であると思うが、先生方も自身の心身の健康に留意しながら動いていただきたい。 ・生徒指導事案などに対し、先生方のチームワークを生かして解決を図っている所がよい。職員室の雰囲気がいづつも温かく、保護者も相談等がしやすいことが安心できる。	
						90.6%	87.5%	109.3%	A							

【J：自己評価・評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【I：学校関係者評価・評価】

I:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。